

第2回 応用脳科学研究会（主催：文部科学省所管財団法人生存科学研究所）

育児と保育の脳科学 — 暗黙知から形式知への挑戦 —

趣旨：小児科の愛育病院内藤寿七郎先生と、神経科学の東京大学時実利彦先生が、脳科学を保育・育児に役立てようとの試みを開始されたのは1960年代の後半のことでした。同じ頃、進化生物学や脳の科学を保育や療育に役立てよう、実践の場で奮闘しておられたのが、さくら・さくらんぼ保育園創立者、斎藤公子先生です。斎藤先生が創出された「リズム遊び」の集大成が、2009年に「こどもたちは未来：乳幼児の可能性を拓く」と題して、2巻に分けて出版されましたが、他にも保育実践の貴重な映像記録が保存されています。それらの記録映像に刻まれた子どもたちの発達から、科学として何が読み取れるのかを、専門家、特に科学者の方々と討議させていただきたいと存じます。発達心理学・脳神経科学・行動発達学・保育学・教育学などの広い視座から、記録・保存された貴重な暗黙知へとアプローチ致します。

日時：2010年3月27日（土曜日）

会場：東京女子医科大学 弥生記念講堂（300人程度）

プログラム

I. 基調講演

13:00~13:40 斎藤公子先生の保育思想が目指したもの

小泉英明 日立製作所フェロー

13:40~14:20 幼児の脳の発達から見た保育・教育の現状と将来

多賀巖太郎 東京大学大学院教育学研究科教授

14:20~14:40 休憩

14:40~15:20 双生児研究や生物進化から見た保育・教育の現状と将来

安藤寿康 慶応義塾大学文学部教授

15:20~16:00 発達コホート研究から見た保育・教育の現状と将来

安梅勅江 筑波大学大学院人間総合科学研究科教授

16:00~16:20 休憩

II. パネル討議

16:20~17:50

パネリスト：上記基調講演者

主題：保育・教育科学と実践を結ぶためには？

連絡先：財団法人生存科学研究所

Tel: 03-3563-3518 Fax: 03-3567-3608

応用脳科学研究会代表：小泉英明、事務局長：小林芳子